

# 日本音楽集団

## PRO MUSICA NIPPONIA

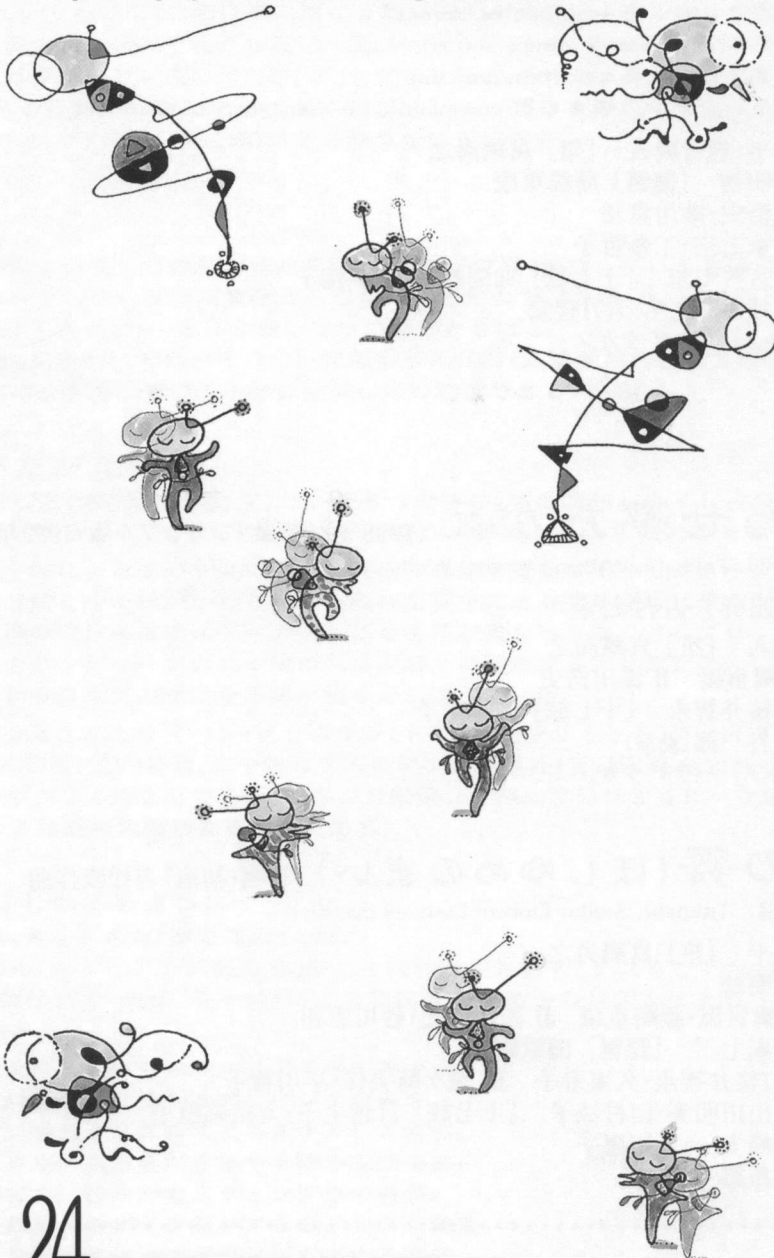


第167回定期演奏会  
The 167th Regular Concert

コンポーザーズ・プロジェクト・シリーズV

### 吉松隆氏からのメッセージ 《夢語り・夢の舞》

Composer's project series V : message from YOSHIMATSU Takashi



5月24日

2002年5月24日(金)午後7時開演(6時15分開場)場所:津田ホール(JR千駄ヶ谷駅前)

主催: 特定非営利活動法人日本音楽集団 助成: 平成14年度文化庁支援事業

ホームページURL <http://www.promusica.or.jp/index.html> E-Mail [office@promusica.or.jp](mailto:office@promusica.or.jp)

一、夢ゆららに… (2001年) (邦楽アンサンブル版・初演) 吉松隆作曲

YOSHIMATSU, Takashi: Wavering Dreams op.86a

[笙] 真鍋尚之  
[尺八] 三橋貴風  
[二十絃箏] I 山田明美 II 宮越圭子

二、恍惚のスケッチ (委嘱・初演) ハラダ タカシ作曲

HARADA, Takashi: esquisses extases

たった一つの言葉 un seul mot  
二つの無邪気の間で entre deux innocenses  
三つの小さなリタニー trois petites litanies  
四拍子のワルツ la valse à quatre temps  
亜鉛は五を欠いている zinc manque cinq  
何も忘れないシアンの嘆きの歌 complainte de Xian qui n'oublie rien

[笛] 西川浩平・越智成人 [笙] 真鍋尚之  
[箏] 稲葉明德 [龍笛] 藤崎重康  
[尺八] 添川浩史・砂川憲和  
[三味線] 杵家七三・工藤哲子  
[二十絃箏] 吉村七重 [十七絃] 丸岡映美・久本桂子  
[打楽器] 望月太喜之丞・若月宣宏  
[オンド・マルトノ] ハラダ タカシ

.. 休憩 ..

三、夢あわせ夢たがえ (1998年) (邦楽アンサンブル版・1999年) 吉松隆作曲

YOSHIMATSU, Takashi: Within Dreams Without Dreams op.74a

[二十絃箏独奏] 吉村七重  
[笛] 越智成人 [笙] 真鍋尚之  
[尺八] I 藤崎重康 II 添川浩史  
[十三絃箏] 桜井智永 [十七絃] 宮越圭子  
[打楽器] 細谷一郎(助演)  
[オンド・マルトノ] ハラダ タカシ

四、星夢の舞 (ほしゆめのまい) (委嘱・初演) 吉松隆作曲

YOSHIMATSU, Takashi: Stellar Dream Dances op.89

[笛] 西川浩平 [笙] 真鍋尚之  
[箏] 稲葉明德  
[尺八] I 三橋貴風・藤崎重康 II 添川浩史・砂川憲和  
[三味線] 杵家七三 [琵琶] 田原順子  
[十三絃箏] I 桜井智永・久東寿子 II 城ヶ崎美保・早川智子  
[二十絃箏] 山田明美・田村法子 [十七絃] 宮越圭子・大島菜穂子  
[打楽器] 尾崎太一・多田恵子  
[指揮] 田村拓男

夢の中で新曲を書き上げ、その初演を聴いて「お、なかなかいい曲が出来たぞ」…とほくほくした途端、目が覚める。これは、結構ショックである。

「夢か…」と気付いた瞬間は、しばし放心状態。でも、今聴いたばかりなのだから、隅から隅まで覚えているはず…と思い直してピアノのところに行き、すぐさま五線紙に向かう。ところが一音も思い出せない。

聴きながら「ああなって、こうなって」と考えを巡らせたことは覚えているのに、肝心の音符の記憶がまったくない。あれは不思議である。

蝶になったと思ったのが私の夢なのか、それとも今の私が蝶の見ている夢なのか…というのは荘子の「胡蝶の夢」。だとしたら、「しまった。曲を書き上げたと思ったのに夢だったか」…と知っている私の方が夢で、本当の私はもう曲を書き上げて初演も終わってほくほくしているのかも…。(などという原稿を読んでいると知っているあなたが実は夢の中…ということも?)

というわけで、今回は夢の向こう側の「私」が見ている夢の中の「夢語り」と「夢の舞」三題。それぞれ五・七・五、計十七パートの「夢の断片」で出来ていて、ハラダタカシ氏の六つの「夢」と合わせると、今晚は二十三もの「夢」に出会える計算である。これはお買い得(?)。

では、夢の私の〈夢三題〉の方の簡単な曲目紹介を。

\*

### ◆夢ゆららに...

尺八、笙、二十絃という3つの異なった固有の「時」と「空間」を持っている楽器のための「夢のゆらぎ」五題。原曲はハーブ、尺八、笙の三重奏として書かれたもので、Iの賦(春)、IIの賦(夏)、IIIの賦(秋)、IVの賦(冬)、Vの賦(春ふたたび)…という短い5つの部分から成る。

2001年春に作曲。同年6月、吉野直子(Hp)・宮田まゆみ(笙)・三橋貴風(尺八)三者のコンサートで初演。今回はハーブのパートを二面の二十絃に翻案しての初演である。op.86a。

### ◆夢あわせ夢たがえ

二十絃を核にした〈水・木・火・雲・空〉という5つの夢の「夢の解題」。タイトルの「夢あわせ」は見た夢が吉か凶かを解読すること、そして「夢たがえ」は夢が凶夢だったとき夢あわせで吉夢に変えること。

1. 水の夢:二十絃による波の音型に笙、笛、尺八の旋律が重なってゆくアダージョ。
2. 木の夢:十三絃と十七絃が加わる木質の乾いた響きによる間奏曲風スケルツォ。
3. 火の夢:箏群の変拍子のオスティナートに全楽器が重なってゆくアレグロ。
4. 雲の夢:笙のロングトーンに二十絃のソロが静かに浮遊するアンダンテ。
5. 空の夢:協和音の大気の中に全楽器が穏やかに漂うフィナーレ。

1998年春、吉村七重さんとウィーン・ゾリステン・トリオ(クラリネット、ヴァイオリン、チェロ)のために作曲。同年9月初演。翌99年夏、二十絃と7人のアンサンブル(笙、笛、尺八2、十三絃、十七絃、打楽器)による邦楽アンサンブル版として再編。同年9月初演。op.74a。今回はさらにハラダタカシ氏のオンド・マルトノが加わる特別限定版による演奏である。

### ◆星夢の舞(ほしゆめのまい)

そして最後は、星から来た「夢の舞楽」七題。

ピアノのための「プレイアデス舞曲集」や二十絃独奏のための「すばるの七つ」などの〈星のための舞曲シリーズ〉の姉妹作で、旋法(モード)による旋律片と変拍子のリズムによる7つの短い舞曲から成る舞踏組曲である。

1. 序之舞(じよのまい):アレグロによる序の舞曲。
2. 流々(るる):柔らかに流れるアンダンテの舞曲。
3. 喜々(きき):跳ねるリズムによるスケルツォ舞曲。
4. 綺羅々(きらら):風と星がささやく静かな間奏曲。
5. 点々(てんてん):軽やかなスウィング風の舞曲。
6. 丁々(たうたう):モザイク風リズムのアレグロ舞曲。
7. 舞戯之舞(ぶぎのまい):ブギのリズムによる終曲。

日本音楽集団の委嘱により2002年初春より4月にかけて作曲。op.89。

## プロフィール

### 吉松 隆 YOSHIMATSU Takashi

1953年(昭和28年)東京生まれ。慶應義塾大学工学部を中退後、一時松村禎三に師事したほかはロックやジャズのグループに参加しながら独学で作曲を学ぶ。

81年に「朱鷺によせる哀歌」でデビュー。いわゆる「現代音楽」の非音楽的な傾向に反発した「世紀末抒情主義」を主唱し、交響曲、協奏曲、オーケストラのための〈鳥の連作〉、室内楽作品、〈モノドラマ〉などの舞台作品、ピアノ曲、ギター曲、邦楽曲など多くの作品を発表している。

作品は「鳥たちの時代／吉松隆作品集」(カメラータ・トウキョウ)を始めとしてそのほとんどがCD化されており、98年からはイギリスのシャンドスとレジデント・コンポーザーの契約を結び、全オーケストラ作品を録音するプロジェクトが進行中である。(現在5枚のCDをリリース、絶賛発売中。)

また、著書に「魚座の音楽論」「世紀末音楽ノオト」(音楽之友社)、編著に「クラシックの自由時間」(立風書房)などがある。



吉松 隆

<http://homepage3.nifty.com/t-yoshimatsu/>

#### 吉松隆邦楽器作品表

- 1980 雨月譜 op.11 (尺八、十七絃)  
◇音楽芸術/Ongaku Geijutsu ©KYCH-2007
- 1986 双魚譜 op.26 (尺八、二十絃箏)  
◇Camerata Music Ltd. ©32CM-208
- 1987 弥勒効果 op.33  
(横笛、尺八3、三味線、琵琶、箏2、十七絃、打楽器2、弦楽合奏)
- 1989 水幻譜 op.38 (尺八、箏)  
◇新典音楽協会 ©MISH-0002
- 1990 もゆらの五ツ op.41 (二十絃箏)  
◇Camerata Music Ltd. ©32CM-189, 28CM-578
- 1992 なばりの三ツ op.54 (十七絃)  
◇Camerata Music Ltd. ©30CM-267, 28CM-578
- 1997 雅楽「鳥夢舞(とりゆめのまい)」 op.69  
(雅楽合奏)
- 1998 夢あわせ夢たがえ op.74  
(二十絃箏、cl、vn、vc)  
©28CM-578
- 1999 夢あわせ夢たがえ(邦楽アンサンブル版) op.74a  
(二十絃箏独奏、笙、笛、尺八2、箏、十七絃、打楽器)
- 1999 すばるの七ツ op.78 (二十絃箏)  
◇Camerata Music Ltd. ©28CM-578
- 2001 夢ゆららに... op.86 (hp、笙、尺八)

[◇:出版譜 ©:CD]

## 恍惚のスケッチ ハラダ タカシ

「恍惚のスケッチ」は五線紙上での約束事では書ききれない、演奏家の領域を最大限に生かすべく着手した作品です。五線譜の果たした大きな役割とは裏腹に、メモ書きとしての譜面の価値が、独自に独り歩きを始めた二十世紀においてさえも、音符を眺めるだけで感動に打ち震えたり、喜びの涙を流すことは極めてまれな専門家の所作に過ぎませんでした。演奏家による生の音楽によってのみ、それらが放つ色彩や香り、空間と時間を行き来する重力の描く抽象画から伝わる恍惚のひとつときを、わかちあうことができるのです。日本音楽集団の素晴らしい演奏家の方々なら私があえて何かを解説する必要などないでしょう。きっと大きな愛にあふれた、いや愛しかないスケッチを描いてくださることと確信しています。

## プロフィール

### ハラダ タカシ (オンド・マルトノ)

#### HARADA Takashi

オンド・マルトノに魅せられ、慶應義塾大学卒業後、パリ大学を経て、1982年パリ国立音楽院に進み、オンド・マルトノ科を首席で卒業。在学中よりオンド・マルトノ奏者また作曲家として積極的な音楽活動を開始する。世界各地でのソロ・リサイタルや室内楽活動、オーケストラのソリストとして共演も数多く、今までに初演してきた新作も200を超える。又、映画音楽、パレエ音楽、CM曲など幅広いフィールドで、世界的なオンド・マルトノ奏者として活動を続けている。02年3月東宝洋画系公開の劇場用長編アニメなかむらたかし監督「パルムの樹」のための音楽を作曲、指揮、演奏。グローバル音楽奨励賞、出光音楽賞などを受賞。CDはビクターエンタテインメントより好評発売中。

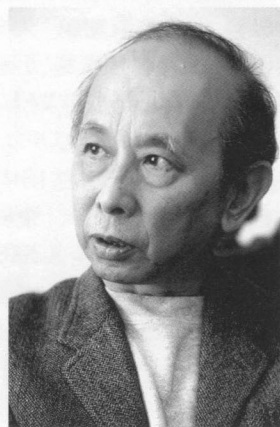


吉松隆さんとはじめてお目にかかったのは、めずらしい席であった。いまから何年前になるか、おぼえていない。とにかくショスタコーヴィチの未亡人が来日した折りのことである。さる雑誌の企画で、未亡人を囲んで座談をしたのである。そこでわたしは、ショスタコの碩学吉松さんと、同席することができたのであった。指揮者の大野和士さんとも、その席が縁になった。

もちろん、それ以前から吉松さんの音楽はあれこれ耳にしていたけれど、ご本人の風貌に、いささかわたしはホッとしていた。もっと冷たい感じの方かな、と思っていたからである。その席上での語り口にもふくらみのあるやさしさがあって、わたしは勝手に親しみを覚えていた。一度仕事でご一緒したいもの、と思うようになったが、その機会は中々具体化しなかった。ところが、思いもかけず、円谷プロがDVDオリジナルで、新しく「ウルトラQ」シリーズをやるという話がもち上がり、その作曲家に吉松さんが指名された、とプロから聞いたのだ。

その一連の曲は、昨年録音された。吉村七重さん、ハラダタカシさんも参加されたその録音は、すばらしいものだった。録音風景のビデオを回すクルーもいた。音楽は、はやく映像を作りたいという意欲をわかせる幻想と夢、そして人間の感情のうねり、機微にみちみちていた。でも、いまだに、この仕事は映像が立ち上がっていない。それが残念でならない。でも必ずや、音楽は自立しているので、そのうちにひとりで歩きはじめるだろう。機会音楽でも、古来音楽は誕生する機会に束縛されないのである。ディヴェルティメントのことを考えればよい。

わたしはショスタコ・フリークから、吉松・フリークになりつつある。ハラダさんとは映画音楽でもお世話になった。そのほかにも、さまざまな機会が甘えている。吉村さんの大ファンでもある私は、彼女とも仕事をしたい、と



つねづね広言している。こんなことばかり書いてみると、三百代言のような気もしてくるが、...

日本音楽集団の定期演奏会が百六十七回を迎えているというのも、驚きである。邦楽のアンサンブルという形は、日本音楽集団のたゆみない歩みで、光彩を放つにいたっている。多面的な音の綾とうねりが、これからますます勢いを増すことになるであろう。とは、わたしの予測でもあるが、願望でもある。この道を通してしか、国際化なんていうことはありえない、とすらわたしは思うのだ。国は言葉から減ぶ、という。国は独自の立場を失い、音を失い、変質させた折には、その文化を危うくさせるに違いない。

邦楽アンサンブルが光彩を放つだけは、そこにある。そこにこそふかい記憶と血に、地につながる根があるからなのだ。わたしは裸足で、下駄で土の道を歩きたいと思うが、その感触を忘れないでいられるのは、たとえば吉松さんの旋律があり、ハラダさんの温度があり、吉村さんの凜とした声があり、そして邦楽器の抱擁が待ち遠しいからである。

2001年

- 11月23日(金)～27(火)第26次海外公演《韓・日記念民族楽団》ソウル公演 韓国国立劇場
- 12月12日(水)《宮本幸子リサイタル・協奏曲の夕べ》に賛助出演 abc会館ホール
- 12月15日(土)輪島おやこ劇場公演 輪島文化会館

2002年

- 1月 7日(月)～8(火)新春邦楽コンサート 新神戸オリエンタル劇場
- 1月18日(金)「竹取物語」公演 松本市音楽文化ホール
- 1月19日(土)日本音楽集団演奏会(〈四季〉ダンス・コンセルタントI他) 秋川キララホール
- 1月25日(金)第166回定期演奏会～新春コンサート～ 津田ホール
- 2月16日(土)ライフサイクルコンサート～「日本」の音、「いま」のおと～ 第一生命ホール
- 2月16日(土)川崎市立生田中学校音楽鑑賞会
- 3月 1日(金)新潟公演(「朱輪金鈴」他) 新潟市音楽文化会館ホール
- 3月29日(金)エクアドル共和国大統領来日記念コンサート ホテルニューオータニ 芙蓉の間
- 4月14日(日)フィリアホール9周年記念コンサート日本音楽集団 フィリアホール
- 4月22日(月)《牧野由多可作品展そのII》に出演 朝日生命ホール
- 5月19日(日)金沢公演(郢曲「鬢多々良」他) 石川県立音楽堂邦楽ホール
- 5月24日(金)第167回定期演奏会～コンポーザーズ・プロジェクト・シリーズV  
～吉松隆氏からのメッセージ～ 津田ホール
- 6月12日(水)山形東高校音楽鑑賞会
- 6月13日(木)風流の心に触れるスーパー和楽コンサート エクシブ蓼科コンベンションホール
- 6月15日(土)雲雀丘学園小学校音楽鑑賞会
- 7月 6日(土)御坊「竹取物語」公演 御坊市民文化会館大ホール
- 7月 9日(火)青森高校・青森北高校芸術鑑賞教室 青森市文化会館
- 8月 3日(土)福岡「竹取物語」公演 福岡シンフォニーホール
- 8月 8日(木)文科省主催「伝統音楽研修会」(古代舞曲によるパラフレーズ) 国立劇場大
- 8月28日(水)～30日(金)佐久市内中学校音楽鑑賞会
- 9月20日(金)第168回定期演奏会～クリティックス・プロジェクト・シリーズ・上野晃  
～現代邦楽の領域I～一個と群のリレーション～ 津田ホール
- 9月29日(日)二本松公演 二本松コンサートホール
- 10月 8日(火)八戸南高校芸術鑑賞教室 八戸市公会堂
- 10月10日(木)水海道高校音楽鑑賞会
- 10月24日(木)鳥栖高校音楽鑑賞会
- 11月 2日(土)第169回定期演奏会～クリティックス・プロジェクト・シリーズ・上野晃  
～現代邦楽の領域II～保守と革新～ 第一生命ホール

【11月定期演奏会は第一生命ホールで開催】

.....

第169回定期演奏会(11/2)は、晴海アイランドトリトンスクエアに音楽専用ホールとして生まれ変わった第一生命ホールに移して開催することになりました。今から38年前、日比谷にあった同ホールで第1回目の定期演奏会を開いた日本音楽集団にとっては思い出のホールです。また、今年度より文化庁の芸術団体重点支援(旧アーツプラン21)を受けることになり、春秋2回の定期は第一生命ホールとの提携のもとに一層拡充した企画を図って行きたいと考えています。

特定非営利活動法人日本音楽集団

【正会員】(団員)(楽器別・五十音順)

笛  
越智成人  
西川浩平

笙  
野田説子  
真鍋尚之

箏  
稲葉明德  
西原祐二

尺八  
加藤秀和  
阪口夕山  
砂川憲和  
添川浩史  
竹井誠  
藤崎重康(笛)  
水川寿也  
三橋貴風  
宮田耕八朗  
元永拓  
米澤浩  
渡辺淳

胡弓  
畦地啓司(作曲)  
多々良香保里

三味線  
杵家七三子  
工藤哲香子  
坂口美香子  
田中悠美子  
中山さち子  
箕田司郎子  
山崎千鶴子

琵琶  
首藤久美子  
田原順子

箏  
大島菜穂子  
久東寿子  
熊沢栄利子  
桜井智永美  
佐藤里美  
島崎春美  
城ヶ崎美保  
高橋はるな  
田村法子  
早川智美子  
彦坂本桂子  
久前川美保子  
松岡知代美  
丸岡映礼子  
三宮越圭子  
山田明由子  
山吉村由七子  
渡辺正子

打楽器  
白杵美智代  
尾崎太郎  
仙堂新太郎  
高橋明邦(指揮)  
多田恵子  
望月喜之丞  
若月宣宏

指揮  
稲田康男  
田村拓生  
田村文生

作曲  
秋岸寛久  
長沢勝俊  
福嶋頼秀

楽器・舞台  
中島隆

名誉代表  
長沢勝俊

代表  
田村拓男

副代表  
尾崎太一

運営委員  
越智成人  
添川浩史  
西川浩平  
箕田司郎  
宮越圭子  
望月喜之丞  
米澤浩

監事  
宮田耕八朗  
今井隆夫

事務局  
霜島素子  
益井紀恵

(休団中は未掲載)

【賛助会員】(五十音順)

法人(株)全音楽譜出版社  
(株)宮本卯之助商店

個人  
青戸順子  
青柳堯世  
朝吹英五  
安達真輔  
新井克子  
飯塚正山  
飯家永治  
逸見和護  
伊藤美恵子  
今村厚子  
今村文彦  
植木眞代  
大木紀史  
大田富枝  
太田衣正  
川壁彰則  
岸津のぶ  
木泉和子

後藤隆子  
後藤陽子  
桜田正憲  
佐々木浩二  
杉田和繁  
関原た雄  
田原た江  
堤手塚雅弘  
藤山靖子  
中島康子  
野原清子  
古川羽衣山  
本野正徳  
水森俊雄  
渡辺京子  
渡辺ハ治

【協力会員】(五十音順)

名誉団員  
坂井敏子  
白根きぬ子  
野坂恵子  
宮本幸子

団友  
青木誠史  
秋谷悟俊  
荒藤惣一  
伊藤隆史  
稲垣悦子  
大川絵都夫  
川崎祥悌子  
菊地知昭子  
楠掛昭二  
鞍沼廣一  
坂田進一  
芝清義矩  
杉浦弘和

砂崎知子  
芹沢英雄  
高野文子  
田嶋恵美子  
田嶋直士  
田中利光  
田野和子  
藤舍呂悦  
藤舍呂船  
仲俣申喜男  
半田淳量  
廣瀬輝久  
福田由旭  
鳳声一  
星谷睦美  
細田左衛  
増田陸八  
望月太康  
望月橋明  
元矢崎三  
柳家小勝

吉沢昌江  
デイヴィッド・ローブ  
デイヴィッド・ヒューズ  
ヘンリー・パーネット  
ラニー・シェルダン  
王燕樵  
張曉輝

地方支部  
道東支部 谷藤 彌  
道東支部 竹馬 亘  
水戸支部 斎藤 幸山  
山梨支部 斎藤 晃  
長野支部 佐藤 宇山  
新潟支部 飯吉 正山  
愛知支部 山田 孝子  
愛媛支部 山渡 治子  
福岡支部 安武 由香  
熊本支部 古川 安春

2002年5月現在

## 賛助会員へのお誘い

.....

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。  
多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動を目指したく、ご協力お願い申し上げます。  
募集の詳細はチラシをご参照ください。

特定非営利活動法人  
**日本音楽集団**

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033  
ホームページURL <http://www.promusica.or.jp/index.html> E-Mail [office@promusica.or.jp](mailto:office@promusica.or.jp)



## アイ・エム・エス

●楽器リース ●保管 ●移動 ●ステージ・スタッフ派遣  
〒167-0043 東京都杉並区上荻2-3-4 ゆうでんビル

PHONE.03-3397-2292

FAX. 03-3397-7728

# 箏

## 二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追究した箏

日本音楽集団推薦

# 有限会社 琴光堂

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(3792)8481 FAX(3792)8437